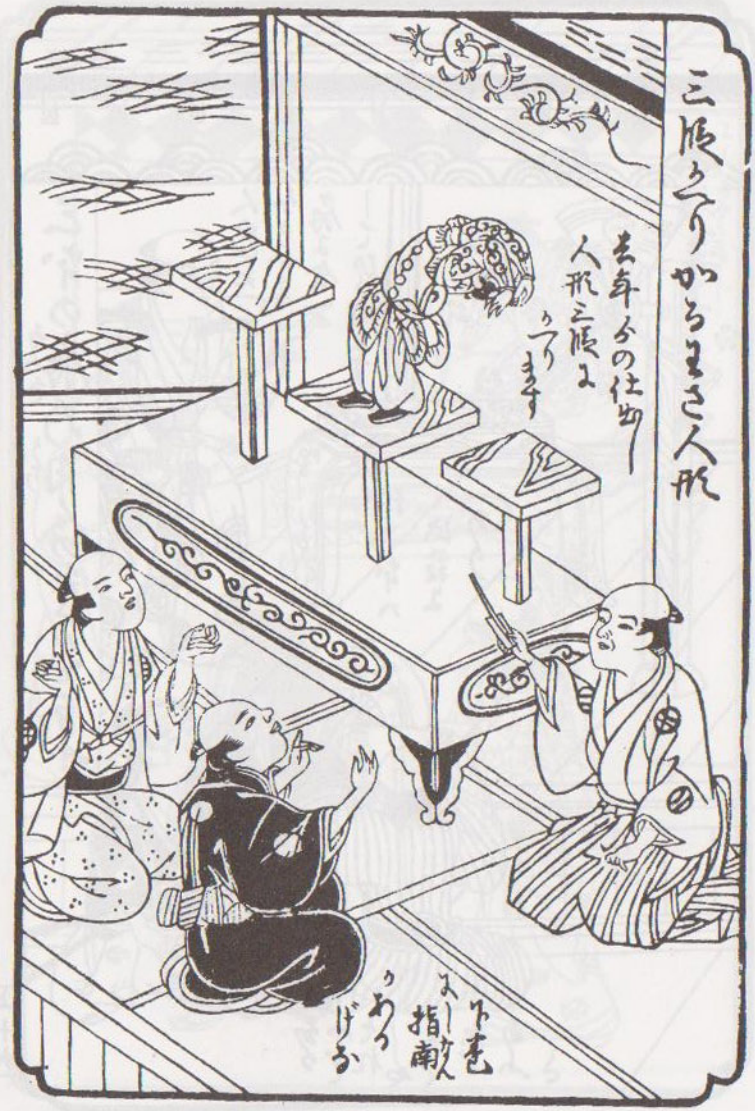
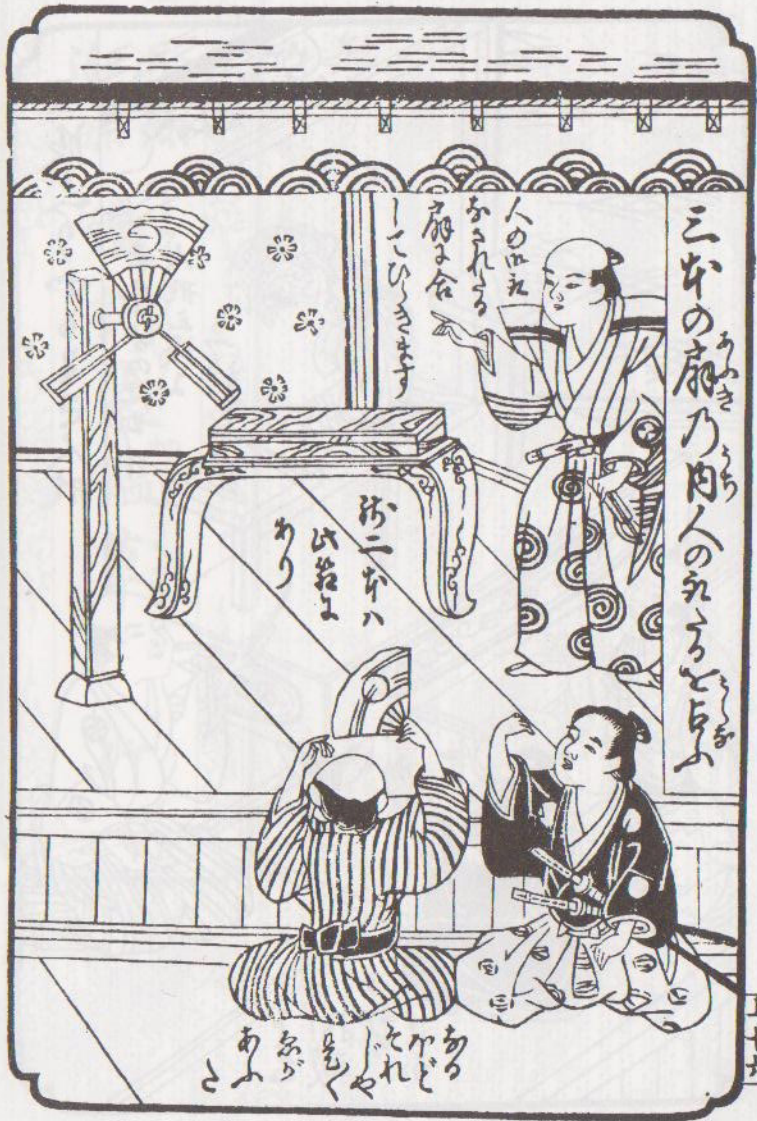


御拾苾
伽か穢け訓蒙しん鑑かん草そう
竹





人形より文やよと書すかゝり

人形のよれとていふは字板といふ物おてうごくまう
 そま板の末いざんまらにて人形のけりてうまの
 ありりりあり



けいんまよ
 は着あり



けいんまよやけいん
 てうまらあけゆま
 けいんまよ

めい人形より竹うゆり

めいあつとていぶわの板
 まます人より文やよとあり
 そありてう中へ糸と
 入まてま糸をわれ
 板の完へとぬいざん
 まらにてうゆり
 けいんまよび文やよ乃
 とありりりあり

とむれ板ゆきま人のあり

めい板板のをあくやんて板をのよ
 のまよハスだいのまらうゆりゆい
 あつとて板にまはしてあんの下へ
 とつとあんの下にてあつとて
 人のありあり

板をあらゆり

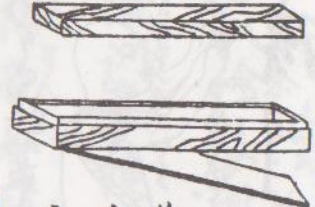
とて人形より一つあり

いす物の人形箱が

今一箱あり

ゆり

ゆり



かろいごれ人形仕極

けふぬのひれとてまづ



人形のこねお車あり



かこのごとく物もも八人形とて此下あるゆへにとて

残刻家鏡草下巻終

け人形の中にぬの入りたる想
 まづ中車たるもの入ると人形
 まつ下中へあつて入ると人
 人形あとのさへ入りたるの
 上へ入りたるもの人形あり
 車とて又中中へあつて入る
 人形入りたるものなり
 是のこねお車にくりて
 たりゆへ人形あとのさへ入り
 系にひくられてくるなり

為世新繪は女鑑

五冊 当正月分むし

續機河家鏡草

三冊 近日出来

機括る心解

三冊 日乃

多賀谷環中仙撰

京大和繪師

川校

豊信圖



未板木作

墨村

平之清